

高校生縄文案内人養成事業 記録集

青森県教育委員会

序

青森県には、縄文人の暮らしを後世に伝える三内丸山遺跡をはじめとする数多くの縄文遺跡群があります。

これらの縄文遺跡群は本県の歴史と文化を理解するうえで、欠くことのできない県民共有の財産であり、確実に保護するだけでなく、さらに活用することが求められております。

県教育委員会では、地域活性化を促進し、将来的に文化財の保存・活用に携わることができる若い世代の人財育成を目的として、高校生を対象に令和元年度及び2年度の2か年で高校生縄文案内人養成事業を実施しました。本記録集は、その実施結果を取りまとめ刊行したものです。

県教育委員会では、今後も若い世代をはじめとした多くの方々の文化財に対する興味・関心を高める取組を通じ、文化財を保存し継承する人財の育成に努めて参ります。本記録集が、文化財を活用した地域活性化について考えていただく一助になれば幸いに思います。

最後に、事業実施及び本書作成に当たり、御協力いただきました皆様に対しまして厚くお礼申し上げます。

令和3年3月

青森県教育委員会

教育長 和嶋 延寿

目 次

序

1	高校生縄文案内人養成事業について	
(1)	事業の目的	P2
(2)	事業実施に向けた取組	P2
(3)	実施方法	P4
(4)	事業の運営支援等	P5
2	各年度の事業実施状況	P6
3	文化財の活用方法	
(1)	令和元年度	
①	八戸商業高校	P30
②	木造高校	P42
③	七戸高校	P53
(2)	令和2年度	
①	青森中央高校	P60
②	弘前実業高校	P76
③	青森北高校	P85
④	レポート（個人参加者）	P90
4	事業成果等	
(1)	事業成果	P103
(2)	今後に向けた課題	P104
(3)	事業のまとめ	P105
5	アンケート集計結果	P106

1 高校生縄文案内人養成事業について

1 高校生縄文案内人養成事業について

(1) 事業の目的

青森県には、世界文化遺産登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産となっている17の遺跡のうち、特別史跡三内丸山遺跡をはじめとする8遺跡が存在しており、各構成資産の保存・活用に向けた取組が活発化しているところです。また、2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、日本遺産など全国的に文化財を活用する取組も活発になっています。

一方で、過疎化や少子高齢化などにより社会状況が大きく変化していく中で、文化財に対する地域住民の理解不足や保護意識の希薄化、文化財所有者の高齢化や後継者不足等の問題が顕在化しており、様々な理由で失われつつある地域の文化財をどのように保存・活用していくかは大きな課題となっています。

このような状況を踏まえ、高校生を対象に、縄文遺跡群をはじめとする本県文化財の価値や魅力に関する講座やガイド等の体験活動を実施し、学んだ成果を基に文化財の新たな活用方法を提案する取組を通じて、文化財を正しく理解し、将来的に保存・活用に携わることができる若い世代の人財を育成することを目的に本事業を実施することとしました。

また、縄文遺跡群の各構成資産で活動する団体等や地元教育委員会と連携して事業を進めることにより、世界文化遺産登録に向けた更なる気運醸成を図るほか、縄文遺跡群等の文化財の新たな活用方法を提案する取組により、本県文化財の認知度と魅力の向上を目指すものです。

(2) 事業実施に向けた取組

① 事業運営体制について

事業の円滑な実施のためには、高等学校・地元教育委員会・遺跡の活動団体の連携が不可欠となります。そのため、事前に関係市町及び高等学校へ赴き、事業への協力を依頼して運営体制の構築を図りました。

各年度の運営体制は次のとおりです。

<令和元年度>

遺跡名	拠点校	教育委員会	活動団体
是川石器時代遺跡	八戸商業高等学校	八戸市教育委員会	縄文是川 ボランティア
亀ヶ岡石器時代遺跡 田小屋野貝塚	木造高等学校	つがる市教育委員会	NPO法人 つがる縄文の会
二ツ森貝塚	七戸高等学校	七戸町教育委員会	二ツ森貝塚 ボランティア ガイドの会

<令和2年度>

遺跡名	拠点校	教育委員会	活動団体
小牧野遺跡	青森中央高等学校	青森市教育委員会	一般社団法人 小牧野遺跡 保存活用協議会
大森勝山遺跡	弘前実業高等学校	弘前市教育委員会	弘前縄文の会
大平山元遺跡	青森北高等学校	外ヶ浜町教育委員会	大平山元遺跡 もりあげ隊

高等学校においては、事業概要の説明、実施スケジュールの確認等を行うとともに、参加生徒の募集や会場使用について協力を依頼をしました。

地元教育委員会及び遺跡の活動団体においては、講師対応を含めた事業への協力を求めるとともに、教育委員会と活動団体の相互の連絡調整について協力を依頼しました。

② 参加生徒について

拠点校においては、基本的に課題研究等の教育活動の一環として取り組んでいただくよう依頼し、事業内容に興味・関心を持つ生徒が参加する形となりました。また、拠点校以外の高等学校についてもチラシを配布して参加者を募集しました。

拠点校以外から参加者は、令和元年度は1校から1名のみでしたが、令和2年度は7校から30名近い応募がありました。

③ 案内人養成講座の講演講師選定について

本事業における案内人養成講座では、縄文文化の専門家、観光事業者等に講演講師を依頼する事としており、各年度における講師は下記の理由により選定しました。

年度	講師職・氏名	選定理由
令和元年度	コラムニスト 山田スイッチ	縄文の魅力を広く伝える実践方法について講演を依頼することとし、縄文に関する連載や県内の縄文関連イベントに参加した経歴を持つ山田スイッチ氏に依頼した。
令和2年度	津軽地吹雪会 代表 角田 周	地域の資源を観光等にどのように活用するかについて講演を依頼することとし、地吹雪体験ツアーを発案し、観光庁の観光カリスマにも選定されている角田周氏に依頼した。

(3) 実施方法

事業は、次の各ステップ順に実施することとしました。

① ステップ1 案内人養成講座

(令和元年度：P7～P10、令和2年度 P19～P22 を参照)

文化財の基礎や縄文遺跡群の魅力、文化財の活用方法に関する講座を開催し、次のステップとなる案内人体験に必要な基礎知識を習得してもらうとともに、本県文化財の価値や魅力について興味関心を高めてもらう。

② ステップ2 案内人体験活動

(令和元年度：P11～P14、令和2年度 P23～P26 を参照)

縄文遺跡群の構成資産に関する理解を深めてもらうとともに、ガイドに関する基礎的なスキルを身につけてもらうことを目的とする。縄文遺跡群の構成資産について、市町教育委員会職員や活動団体等の方を講師に迎え、遺跡の特徴や魅力について学習し、その後、高校生自らがガイドの内容について考え、実際にガイド体験を行う。

③ ステップ3 レポートの作成

ステップ1及び2に参加した高校生が、学校の課題研究の時間等を活用し、学習・体験したことを踏まえ、縄文遺跡群等の文化財の活用方法について検討し、パワーポイントやレポート（壁新聞形式）にまとめる。

④ 活用方法の提案発表

(令和元年度：P15～P18、令和2年度 P27～P28 を参照)

案内人養成講座及び案内人体験活動に参加した高校生が、活用方法の提案発表に向け、学んだ成果をまとめるとともに、活用方法の提案発表を行う。

(※令和元年度は八戸市、つがる市、七戸町の3地区において、一般県民等を対象にフォーラム形式で開催しましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策により、一般県民等を対象とせず、高校生のみの参加とし、青森市を会場に青森市、弘前市、外ヶ浜町の3地区合同の学習成果発表会を実施しました。)

<令和元年度 事業実施日程（実績）>

事業区分	八戸市	つがる市	七戸町
案内人養成講座	7月7日	7月20日	6月30日
案内人体験	8月2日～4日	7月26日 8月16日～17日	8月1日～3日
レポート作成	9～11月		
フォーラム	12月8日	1月25日	11月30日

<令和2年度 事業実施日程（実績）>

事業区分	青森市	弘前市	外ヶ浜町
案内人養成講座	7月5日	7月18日	6月27日
案内人体験	8月9日～10日	8月1日～2日	8月1日～2日
レポート作成	9～11月		
学習成果発表会	12月6日		

(4) 事業の運営支援等

① 業務委託契約について

本事業は、複数の開催場所において、養成講座等多数の取組を行う計画となっており、各会場の手配や、広報等を速やかに行うとともに、会場設営や移動用交通機関の手配等を短期間で行う必要があるため、事業の運営サポート業務を委託することとし、令和元年度・2年度共に、指名競争入札の結果、株式会社協同が受注してサポート業務を実施しました。

具体的な業務内容は次のとおりです。

- ・講師との連絡・調整、旅費・謝金の支払
- ・会場の手配、設営及び撤去
- ・高校生の移動に係るバス手配及び傷害保険への加入
- ・講座等の配布資料の印刷、パソコン等の手配
- ・チラシ及びポスターの作成・配布

② 令和2年度新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症対策として、会場でのマスク着用、消毒液の準備、こまめな換気を行いました。会場や移動用のバスについては、参加者数より大きいものを使用し、3密の状態を回避しました。

2 各年度の事業実施状況

(1) 令和元年度

①案内人養成講座（概要）

本県文化財の価値や魅力について学習してもらうため、文化財の基礎や、縄文遺跡群の魅力、文化財の活用方法等についての講座を開催しました。

市町教育委員会や外部の専門家に講師を依頼し、基礎知識や文化財に対する興味関心を高める内容について学習しました。

<講座の構成>

- ・ 講座1 「地域の文化財について」
講師：各市町教育委員会職員
内容：地元の文化財に関する講義
- ・ 講座2 「縄文遺跡群の魅力について」
講師：県教育庁文化財保護課職員
内容：縄文遺跡群の各構成資産について、特徴や魅力に関する講義
- ・ 講座3 「もっと土器土器しようぜ！」
講師：山田 スイッチ氏
内容：自宅に竪穴式住居を建てたり、ストーンサークルの建設など様々なイベントを行った体験を基に、縄文文化をどのように楽しむか、またその楽しさを広める方法に関する講義。
- ・ 自由討論「あなたの地域の縄文遺跡を活用した地域の活性化を考えてみよう」
内容：講義内容を基に、地域の縄文遺跡を活用した地域の活性化について自由討論を行い、その内容を発表する。

七戸町	
期 日	令和元年6月30日(日)
会 場	七戸高等学校
講座内容	<p>講座1 地域の文化財について 講師：七戸町教育委員会 世界遺産対策室 主事 高部 由夏氏</p> <p>講座2 縄文遺跡群の魅力について 講師：県教育庁文化財保護課 埋蔵文化財グループ 総括主幹 小笠原 雅行氏</p> <p>講座3 もっと土器土器しようぜ！ 講師：山田 スイッチ氏</p> <p>自由討論</p>
参 加 者	七戸高等学校 生徒8名
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>講義1を受講</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>土器の見学</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>講義2を受講</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>自由討論</p> </div> </div>	

八戸市	
期 日	令和元年7月7日（日）
会 場	八戸市公民館
講座内容	<p>講座1 地域の文化財について 講師：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 縄文の里整備推進グループリーダー 小久保 拓也氏</p> <p>講座2 縄文遺跡群の魅力について 講師：県教育庁文化財保護課 埋蔵文化財グループ 総括主幹 小笠原 雅行氏</p> <p>講座3 もっと土器土器しようぜ！ 講師：山田 スイッチ氏</p> <p>自由討論</p>
参加者	八戸商業高等学校 生徒5名
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>講義1を受講</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>自由討論</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>文化財活用アイデア発表</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>山田スイッチさんと記念撮影</p> </div> </div>	

つがる市	
期 日	令和元年7月20日(土)
会 場	つがる市生涯学習交流センター「松の館」
講座内容	<p>講座1 地域の文化財について 講師：つがる市教育委員会 社会教育文化課 学芸員 堀内 和宏氏</p> <p>講座2 縄文遺跡群の魅力について 講師：県教育庁文化財保護課 埋蔵文化財グループ 総括主幹 小笠原 雅行氏</p> <p>講座3 もっと土器土器しようぜ！ 講師：山田 スイッチ氏</p> <p>自由討論</p>
参加者	木造高等学校 生徒15名 五所川原第一高等学校 生徒1名 計16名



講義1を受講



土器の見学



講義3を受講



文化財活用アイデア発表

②案内人体験活動（概要）

縄文遺跡群の構成資産に関する理解を深めるため、高校生が実際に遺跡を訪れ、市町教育委員会職員や活動団体等の方を講師に迎え、遺跡の特徴や魅力、ガイドの手法等を学びました。その後、講師のアドバイスを得ながら、高校生が実際にガイドを行うための内容を考えたり、資料を作成し、一般客や活動団体の方々等を相手に実際にガイドを行いました。生徒達は工夫を凝らした説明を行い、質問にも対応するなど、文化財に対する理解を深める意味でも貴重な体験となりました。

<体験活動の構成>

① 1日目～2日目

「ガイド研修」

講師：活動団体等

内容：ガイドの仕方を学び、高校生が実際にガイドする内容の検討

② 2日目～3日目

「ガイド体験」

講師：活動団体等

内容：遺跡の来場者等に高校生がガイドを実施

つがる市	
期 日	令和元年7月26日(金)、8月16日(金)～8月17日(土)
会 場	亀ヶ岡石器時代遺跡、田小屋野貝塚
活動内容	<p>ガイド研修及びガイド活動</p> <p>①1日目 木造高等学校の取組である「駅からハイキング」と連携して実施 しやこちゃん広場をスタートし、平滝沼公園をゴールとするコースの中で亀ヶ岡石器時代遺跡及び田小屋野貝塚でガイドすることとして、ガイド練習を実施</p> <p>②2日目 1日目と同様にガイド練習を実施</p> <p>③3日目 「駅からハイキング」の参加者を対象にガイド体験</p>
参加者	木造高等学校 生徒18名 五所川原第一高等学校 生徒1名 計19名
	
遺跡の説明	
	
ガイドの練習	
	
ガイド体験	
	
ガイド体験	

七戸町	
期 日	令和元年8月1日(木)～8月3日(土)
会 場	二ツ森貝塚、二ツ森地区コミュニティセンター
活動内容	<p>ガイド研修及びガイド活動</p> <p>講師：二ツ森貝塚ボランティアガイドの会 鎌本 義明氏、宮澤 剛毅氏、附田 豊壽氏</p> <p>①1日目 二ツ森貝塚の説明を受け、二ツ森地区コミュニティセンターにおいてガイド内容の検討</p> <p>②2日目 他のグループを相手にガイド練習</p> <p>③3日目 二ツ森貝塚においてジュニアボランティアガイド(小学生)及びボランティアガイドを対象にガイド体験</p>
参加者	七戸高等学校 生徒9名
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>遺跡の説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>遺跡の説明</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ガイド内容の検討</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ガイド体験</p> </div> </div>	

八戸市	
期 日	令和元年8月2日(金)～8月4日(日)
会 場	是川石器時代遺跡、是川縄文館
活動内容	<p>ガイド研修及びガイド活動</p> <p>講師：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 縄文の里整備推進グループリーダー 小久保 拓也氏 縄文是川ボランティア 佐藤 啓治氏、大久保 京子氏、井上 久榮氏</p> <p>①1日目 是川石器時代遺跡及び是川縄文館の説明を受け、高校生同士でガイド練習</p> <p>②2日目 是川縄文館に来場した一般の方を対象にガイド体験</p> <p>③3日目 2日目と同様にガイド体験を実施</p>
参加者	八戸商業高等学校 生徒5名
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>遺跡の説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>是川縄文館の見学</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ガイド体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ガイド体験</p> </div> </div>	

③縄文案内人フォーラム（概要）

これまでの学習内容を踏まえ、文化財の活用方法に関する発表を行いました。また、一般来場者に各縄文遺跡の現状について理解してもらうため、市町教育委員会職員から現状についての講演を行いました。

参加者の文化財の活用や魅力発信に対する理解を深めるため、外部講師による文化財の活用に関する講演やパネルディスカッションを行いました。

<フォーラムの構成>

- ・「各遺跡の現状」
講 師：各市町教育委員会職員
内 容：各遺跡の現状に関する講義
- ・「高校生の発表」
内 容：文化財の活用方法の提案発表
- ・「活用に関する講演」
講 師：外部講師
内 容：講師の経験を踏まえた文化財の活用に関する講演
- ・「パネルディスカッション」
パネラー：活用に関する講演に係る外部講師
参加高校生
遺跡の活動団体職員
各市町教育委員会職員
テーマ：縄文の魅力をみんなで発信しよう

七戸町	
期 日	令和元年11月30日(土)
会 場	七戸南公民館
開催内容	<p>①「ニツ森貝塚について」 講 師：七戸町教育委員会世界遺産対策室 主事 高部 由夏氏</p> <p>②「ニツ森貝塚のガイド体験を通して学んだこと」 発表者：七戸高等学校生徒</p> <p>③「活用に関する講演」 講 師：特定非営利活動法人十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子氏 内 容：「地域で子どもたちを育てるための仕組みについて」 人との関わりやつながりが自分たちの力となり、続けていくことで「地域の子どもを育てる」ことにつながり、結果的に地域が活性化する。</p> <p>④パネルディスカッション パネラー：特定非営利活動法人十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子氏 七戸高等学校生徒代表 ニツ森貝塚ボランティアガイドの会 会長 鎌本 義明氏 七戸町教育委員会世界遺産対策室 主事 高部 由夏氏</p>
参加者	七戸高等学校 生徒7名 一般来場者 14名 計21名
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>遺跡の現状に関する講義</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>生徒の発表</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>活用に関する講演</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>パネルディスカッション</p> </div> </div>	

八戸市	
期 日	令和元年12月8日(日)
会 場	はちふくプラザねじょう
開催内容	<p>①「是川石器時代遺跡について」 講 師：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 縄文の里整備推進グループリーダー 小久保 拓也 氏</p> <p>②「縄文を紐解く～世界文化遺産登録に向けて私たちができること～」 発表者：八戸商業高等学校生徒発表</p> <p>③「活用に関する講演」 講 師：株式会社ACプロモート 代表 町田 直子氏 内 容：「地域ブランディングで魅力発信する方策について」 地域の魅力ある資源について、多くの選択肢の中から、どのようにして記憶に残し、関心をもってもらい、選んでもらうか。</p> <p>④パネルディスカッション パネラー：株式会社ACプロモート 代表 町田 直子氏 八戸商業高等学校生徒代表 縄文是川ボランティア 副代表 大久保 京子氏 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 縄文の里整備推進グループリーダー 小久保 拓也 氏</p>
参 加 者	八戸商業高等学校 生徒5名 一般来場者 11名 計16名
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>遺跡の現状に関する講義</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>生徒の発表</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>活用に関する講演</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>パネルディスカッション</p> </div> </div>	

つがる市	
期 日	令和2年1月25日(土)
会 場	つがる市生涯学習交流センター「松の館」
開催内容	<p>①「亀ヶ岡石器時代遺跡・田小屋野貝塚について」 講 師：つがる市教育委員会社会教育文化課係長 羽石 智治氏</p> <p>②「世界遺産登録目前のつがる市の縄文遺跡を盛り上げるために」 発表者：木造高等学校生徒</p> <p>③「活用に関する講演」 講 師：GLOBAL TABLE 合同会社 代 表 山内 リチャードソン 澄子氏 内 容：「外国人観光客が笑顔で地域にやって来る仕組みづくりについて」 外国人観光客と地元との交流を通して、また来たい、他の人にも伝えたいと思ってもらえる仕組みづくりが重要になる。</p> <p>④パネルディスカッション パネラー：GLOBAL TABLE 合同会社 代 表 山内 リチャードソン 澄子氏 NPO法人つがる縄文の会 理事長 川嶋 大史氏 つがる市教育委員会社会教育文化課 係長 羽石 智治氏</p>
参 加 者	木造高等学校 生徒1名、一般来場者 56名 計57名



遺跡の現状に関する講義



生徒の発表



活用に関する講演



パネルディスカッション

(2) 令和2年度

①案内人養成講座（概要）

令和元年度と同様に、本県文化財の価値や魅力について学習してもらうため、文化財の基礎や、縄文遺跡群の魅力、文化財の活用方法等についての講座を開催しました。

講座は、基本的に前年度と同じ構成とし、外部講師として津軽地吹雪会会長の角田周氏に講演を依頼しました。

<講座の構成>

- ・ 講座1 「地域の文化財について」
講師：各市町教育委員会職員
内容：地元で文化財に関する講義
- ・ 講座2 「縄文遺跡群の魅力について」
講師：県教育庁文化財保護課職員
内容：縄文遺跡群の各構成資産について、特徴や魅力に関する講義
- ・ 講座3 「文化財の利活用について」
講師：津軽地吹雪会
代表 角田 周氏
内容：雪国地吹雪体験ツアーの実例を基に、まず自分自身が地元に対する理解を深める、間違った情報を伝えないなどのガイドをする際の心構えについての講義。
- ・ 自由討論「あなたの地域の縄文遺跡を活用した地域の活性化を考えてみよう」
内容：講義内容を基に、地域の縄文遺跡を活用した地域の活性化について自由討論を行い、その内容を発表する。

外ヶ浜町	
期 日	令和2年6月27日（土）
会 場	青森北高等学校
講座内容	<p>講座1 地域の文化財について 講師：外ヶ浜町教育委員会社会教育課 総括班長兼学芸員 駒田 透氏</p> <p>講座2 縄文遺跡群の魅力について 講師：県教育庁文化財保護課 埋蔵文化財グループ 文化財保護主査 荒谷 伸郎氏</p> <p>講座3 文化財の利活用について 講師：津軽地吹雪会 代表 角田 周氏</p> <p>自由討論</p>
参加者	青森北高等学校 生徒17名 青森東高等学校 生徒 1名 計18名



講義1を受講



講義2を受講



自由討論



文化財活用アイデア発表

青森市	
期 日	令和2年7月5（日）
会 場	青森中央高等学校
講座内容	<p>講座1 地域の文化財について 講師：青森市教育委員会文化財課 文化財保護チーム 文化財主査 設楽 政健氏</p> <p>講座2 縄文遺跡群の魅力について 講師：県教育庁文化財保護課 埋蔵文化財グループ 文化財保護主査 荒谷 伸郎氏</p> <p>講座3 文化財の利活用について 講師：津軽地吹雪会 代表 角田 周氏</p> <p>自由討論</p>
参加者	青森中央高等学校 生徒15名、青森西高等学校 生徒3名 青森南高等学校 生徒5名、八戸西高等学校 生徒1名 八戸聖ウルスラ学院高等学校 生徒1名 計25名



講義1を受講



自由討論



講義3を受講



文化財活用アイデア発表

弘前市	
期 日	令和2年7月18日(土)
会 場	弘前実業高等学校
講座内容	講座1 地域の文化財について 講師：弘前市教育委員会文化財課 埋蔵文化財係主事 東海林 心氏 講座2 縄文遺跡群の魅力について 講師：県教育庁文化財保護課 埋蔵文化財グループ 文化財保護主査 荒谷 伸郎氏 講座3 文化財の利活用について 講師：津軽地吹雪会 代表 角田 周氏 自由討論
参加者	弘前実業高等学校 生徒8名、弘前南高等学校 生徒15名 柴田学園高等学校 生徒1名 計24名



講義1を受講



自由討論



文化財活用アイデア発表



講評の様子

②案内人体験活動（概要）

令和元年度と同様に、縄文遺跡群の構成資産に関する理解を深めるため、高校生が実際に遺跡を訪れ、市町教育委員会職員や活動団体等の方を講師に迎え、遺跡の特徴や魅力、ガイドの手法等を学びました。

また、夏の猛暑の中での開催となるため、生徒の体調を考慮し、令和2年度は日程を1日短縮し、2日間の開催としました。

生徒達は、それぞれの遺跡の特徴を踏まえた説明方法についてグループ毎にアイデアを出し合い、積極的にガイドに臨み、遺跡への理解を深めるとともに、伝えることを学ぶ機会となりました。

<体験活動の構成>

①1日目～2日目

「ガイド研修」

講師：活動団体等

内容：ガイドの仕方を学び、高校生が実際にガイドする内容の検討

②2日目

「ガイド体験」

講師：市町教育委員会職員等

内容：活動団体等に高校生がガイドを実施

弘前市	
期 日	令和2年8月1日(土)～8月2日(日)
会 場	大森勝山遺跡、裾野地区体育文化交流センター
活動内容	<p>ガイド研修及びガイド体験</p> <p>講師：弘前市教育委員会文化財課 埋蔵文化財係主事 東海林 心氏 県教育庁文化財保護課 埋蔵文化財グループ 総括主幹 小笠原 雅行氏</p> <p>①1日目 裾野地区体育文化交流センターにおいて、大森勝山遺跡や全国の環状列石についての講義を受け、ガイド内容の検討</p> <p>②2日目 大森勝山遺跡において、ガイドの練習を行い、地元のボランティアへのガイド体験</p>
参加者	弘前実業高等学校 生徒8名、弘前南高等学校 生徒18名 柴田学園高等学校 生徒1名 計27名



遺跡の講義



環状列石の見学



ガイド内容の検討



ガイド体験

外ヶ浜町	
期 日	令和2年8月1日(土)～8月2日(日)
会 場	大平山元遺跡、大山ふるさと資料館、外ヶ浜町役場
活動内容	<p>ガイド研修及びガイド体験</p> <p>講師：外ヶ浜町教育委員会社会教育課 総括班長兼学芸員 駒田 透氏 県教育庁文化財保護課 埋蔵文化財グループ 文化財保護主査 荒谷 伸郎氏</p> <p>①1日目 外ヶ浜町役場において、大平山元遺跡についての講義を受け、大平山元遺跡・大山ふるさと資料館を見学し、ガイド内容の検討</p> <p>また、蟹田川での石器の材料採集及び制作体験を実施</p> <p>②2日目 ガイドの練習を行い、ボランティアへのガイド体験 (ガイド体験は、大平山元遺跡及び大山ふるさと資料館において実施)</p>
参加者	青森北高等学校 生徒19名、青森東高等学校 生徒1名 計20名



遺跡の講義



ガイド内容の検討



ガイド体験



ガイド体験

青森市	
期 日	令和2年8月9日（日）～8月10日（月）
会 場	小牧野遺跡、縄文の学び舎小牧野館
活動内容	<p>ガイド研修及びガイド体験</p> <p>講師：青森市教育委員会文化財課 文化財保護チーム チームリーダー兼主幹 児玉 大成氏 東北芸術工科大学 児玉 和奏氏 一般社団法人 小牧野遺跡保存活用協議会 代表理事 竹中 富之氏 理事 後藤 公司氏</p> <p>①1日目 小牧野遺跡・縄文の学び舎小牧野館の説明や本県出身大学生の事例発表を受け、ガイド内容の検討</p> <p>②2日目 ガイドの練習を行い、青森市の縄文イベントと連携し、来場していた小学生親子を相手にガイド体験</p>
参加者	青森中央高等学校 生徒15名、青森西高等学校 生徒3名 青森南高等学校 生徒3名、八戸西高等学校 生徒1名 八戸聖ウルスラ学院高等学校 1名 計23名



遺跡の講義



ガイド内容の検討



ガイド体験



テレビ取材

③学習成果発表会（概要）

昨年度は、一般来場者も入れて、フォーラムとして開催しましたが、新型コロナウイルス感染症対策により参加者を高校生に限定し、3地区合同で開催しました。生徒はこれまでの学習内容を踏まえ、文化財の活用方法をパワーポイントやレポート（壁新聞形式）にまとめて発表しました。また、内容に対して、生徒同士の活発な意見交換が交わされました。

発表後には、今年度の取組の中で講師等をお願いした市町教育委員会職員や遺跡の活動団体の方から講評があり、高校生が考えた様々なアイデアに対して高い評価をいただくなど、取組の成果が存分に発揮された発表会となりました。

<学習成果発表会の構成>

- ・ 高校生の発表

内容：文化財の活用方法の提案発表

青森市（青森市、弘前市、外ヶ浜町の3地区合同で開催）

期 日	令和2年12月6日（日）
会 場	ねぶたの家 ワ・ラッセ
開催内容	<p>講 評</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 津軽地吹雪会 代表 角田 周氏 ・ 青森市教育委員会文化財課 文化財保護チーム チームリーダー兼主幹 児玉 大成氏 ・ 一般社団法人 小牧野遺跡保存活用協議会 理事 後藤 公司氏 ・ 外ヶ浜町教育委員会社会教育課 総括班長兼学芸員 駒田 透氏 ・ 一般社団法人三内丸山応援隊 代表理事 一町田 工氏 ・ 弘前市教育委員会文化財課 埋蔵文化財係主事 東海林 心氏 <p>①「活用方法の発表」 青森中央高等学校、弘前実業高等学校、青森北高等学校生徒による文化財の活用方法に関する提案発表</p> <p>②「レポートの発表」 上記①以外の学校生徒のレポート（壁新聞）による文化財の活用方法に関する提案発表</p>
参 加 者	<p>青森中央高等学校 生徒15名、青森西高等学校 生徒2名 青森南高等学校 生徒5名、青森北高等学校 生徒4名 青森東高等学校 生徒1名、弘前実業高等学校 生徒3名 弘前南高等学校 生徒17名、八戸西高等学校 生徒1名 八戸聖ウルスラ学院高等学校 生徒1名 計49名</p>



青森中央高等学校の発表



青森北高等学校の発表



弘前実業高等学校の発表



青森南高等学校のレポート発表



八戸聖ウルスラ学院高等学校のレポート発表



弘前南高等学校のレポート発表

3 文化財の活用方法

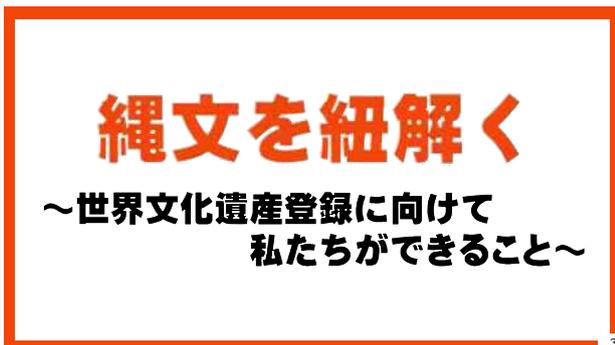
※この章では、高校生がフォーラム及び学習成果発表会で使用したパワーポイント及びレポート資料を掲載しています。



【テーマ設定理由】

縄文遺跡群を世界文化遺産登録に向けて縄文の魅力を広めたい

2



3

【縄文時代とは】

約1万5千年前頃～
紀元前4世紀頃

4



5

【活動目標】

世界文化遺産登録に向けて縄文を身近に感じてもらう

6

縄文を地域の ビジネスにする

7

【仮説 1】

縄文に興味を持ってもらう
ことで、**世界文化遺産登録**
に向けて八戸市民も盛り上
がるのではないかと？

8

【仮説 2】

「**いのるん**」の認知度を向
上させることで、縄文時代
に興味が高まり、**ビジネス**
につながるのではないかと？

9

【検証 1】

縄文文化に興味はありますか？（生徒）

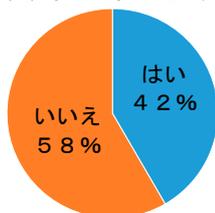


74人

10

【検証 1】

縄文文化に興味はありますか？（保護者）



60人

11

興味が高い

12

【検証 1】

「いのるん」を身近なものにする

13

【活動内容】

- お守りの制作
- 絵馬の制作
- 縄文バックの制作
- 縄文案内人の参加

14

【実践 1】 蕪島神社訪問（5月12日）

お守り制作の協力依頼

一緒にお守り
作りたいるん♪



15

お守りの本来の目的に合わない



16

断  念

17

【実践 2】

縄文バックの制作

18

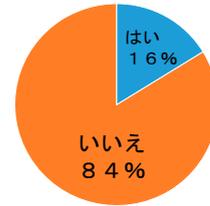
【実践 2】



19

【検証 2】

縄文バックを見たことがありますか？（生徒）

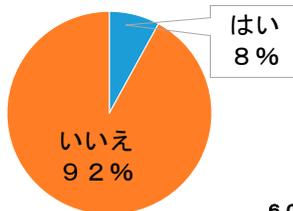


74人

20

【検証 2】

縄文バックを見たことがありますか？（保護者）



60人

21

認知度が低い

22



23

どうすれば認知度を
上げられるのか？

24



【実践2】

スポーツチームと コラボバッグの制作

26

【実践2】



【実践2】



東北フリース × いのるん (案)

28

【実践2】



ヴァンラーレ八戸 × いのるん (案)

29

【実践2】ヴァンラーレ八戸ボランティア



30

【実践3】 絵馬製作

櫛引八幡宮 × いのるん



いのるん (祈り) × 絵馬



受験生をターゲット

31

【実践3】 櫛引八幡宮訪問 (6月8日)

- 打ち合わせ
- ポスター制作



32

【実践3】 櫛引八幡宮訪問 (7月20日)

- ポスター完成
- 絵馬の進捗状況を確認

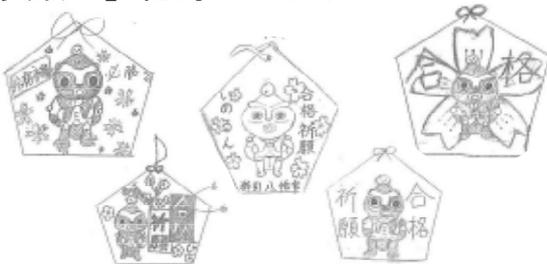
33

【実践3】 絵馬板のポスター



34

【実践3】 絵馬のデザイン



35

【実践4】

是川縄文館と協力して
縄文文化を広める

36

【実践4】

青森県 縄文案内人育成事業

37

【実践4】

高校生縄文案内人講座

7月7日
八戸市公民館

38

【実践4】



39

【実践4】



40

【実践4】



41

【実践4】



42

【実践4】

縄文土器型の
食器

たて穴住居での
脱出ゲーム

縄文をモチーフに
したキーホルダー

43

【実践4】



44

【実践4】

高校生縄文案内人

高校生が案内
するん♪



45

【実践4】



46

ガイド体験1日目(8月2日)

- 遺跡見学
- 是川遺跡の魅力に関する講義
- ガイド研修



47

【実践4】



48

【実践4】



49

【実践4】



是川遺跡について
学んでいる様子



ガイド研修の様子

50

漆の美



51

漆塗り土器



- ・つやがあり、色鮮やか
- ・耐久性を高める
- ・材料を使い分けている

52

是川之美



53

亀ヶ岡式土偶



- ①形を作る
- ②磨いて光沢を出す
- ③焼く
- ④いぶして黒くする

54

遮光器土偶



- 子孫繁栄を願う
- ほとんどが女性
- 自分の身代わり

55

【実践4】

ガイド体験2日目(8月3日)

約50人の来館者を案内

56

【実践4】



57

【実践4】



58

【実践4】



59

【実践4】

ガイド体験3日目(8月4日)



だいが慣れてきたるん♪

60

【実践4】



61

【実践4】



62

講評・感想発表

63



64

【検証結果】仮説1

- 縄文案内人ガイドでは県外の人が多かった
- 市内の人に来てもらえる活動が必要

65

【検証結果】仮説2

- 絵馬完成
- バックの制作は継続

66



67



68

【いのるん絵馬】

1体 ¥1,000 (税込)

販売開始12月1日

100枚限定



69

【今後の課題】

- 世界文化遺産登録を目指すために、縄文の魅力を身近なところから伝え続ける
- 縄文を地元のブランドにする

70

【参考文献】

- 是川縄文館HP
<http://www.korekawa-jomon.jp/>
- 北海道・北東北の縄文遺跡群HP
<https://jomon-japan.jp/>

71

縄文愛

ご清聴ありがとうございました

72

世界文化遺産登録目前のつがる市の
縄文遺跡を盛り上げるために



青森県立木造高等学校 3年次 沼 畑 大

駅からハイキング活動動機

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の
世界文化遺産登録に向けて

- ・ボランティアガイドの実施
- ・各種セミナー等への参加

↓

世界文化遺産登録への機運UP

↓

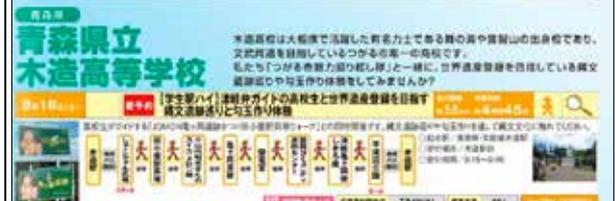
縄文遺跡の取り組むべき改善策の提案

駅からハイキング つがる市縄文遺跡のPR活動



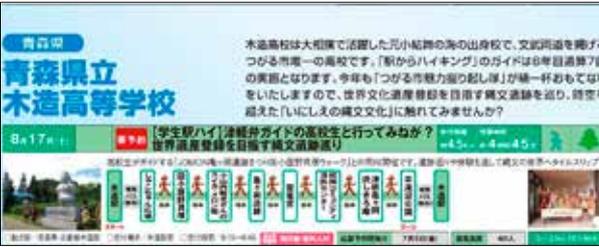
参加者: 23名(県内: 6名、県外: 17名)

駅からハイキング つがる市縄文遺跡のPR活動

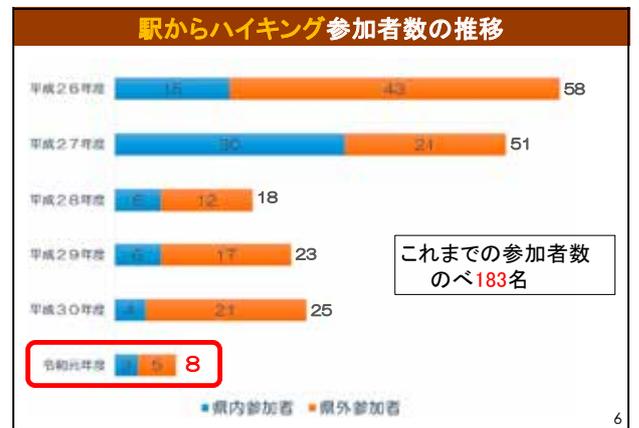


参加者: 25名(県内: 4名、県外: 21名)

駅からハイキング つがる市縄文遺跡のPR活動



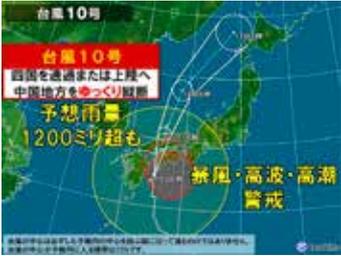
参加者: 8名(県内: 3名、県外: 5名)



駅からハイキング参加者数の推移

予約数 20名 ⇒ 当日の参加者数 8名

駅からハイキング前日から当日にかけて
台風10号が青森県に最接近



7

駅からハイキング ポスター リーフレット



8

駅からハイキングの様子

開催セレモニー(しゃこちゃん広場)




9

駅からハイキングの様子

田小屋野貝塚




10

駅からハイキングの様子

人骨発見場所(田小屋野貝塚)




11

駅からハイキングの様子

スイカ・メロン収穫体験(小山内昭光様の農場)




12

駅からハイキングの様子

スイカ・メロンの試食(小山内昭光様の農場)



13

駅からハイキングの様子

亀ヶ岡石器時代遺跡



14

駅からハイキングの様子

昼食(館岡コミュニティ消防センター)



15

駅からハイキングの様子

ミニ土偶づくり体験(館岡コミュニティ消防センター)



16

駅からハイキングの様子

つがる市の見所の紹介



17

駅からハイキングの様子

郷土料理の紹介



18

駅からハイキングの様子

津軽弁の紹介(津軽弁講座)

津軽弁の特徴

1. 発音が濁る
2. 一つの言葉でアクセントが変わるだけで、意味が違う言葉になる
3. 言葉を短縮する

津軽弁講座 1

どさ？
ゆさ。

津軽弁講座 3

かつちゃや、
この服かつちゃだや

津軽弁講座 6

しゃべればしゃべってしゃべられるし、
しゃべねばしゃべねってしゃべられるし、
どうせしゃべられるんたば
しゃべねってしゃべられるより、
しゃべねってしゃべられたほうがいいって
しゃべってって
しゃべってけ。

19

駅からハイキングの様子

つがるブランドメロンに関する説明

メロンの網目はなぜあるの？



つがるブランド認定マーク



20

駅からハイキングの様子

津軽亀ヶ岡焼きしきろ庵




21

駅からハイキングの様子

参加者のお見送り(木造駅)



22

駅からハイキング参加者へのアンケート調査

【木造高校生会】津軽弁ガイドの高評価と作ってあげよう
世界文化遺産登録を目指す縄文博物館の旗

※今回は追加いただいたアンケートです。参加アンケートの集計をお知らせします

1. 旗柄を気に入りましたか。 1. 男性 2. 女性

2. 男性を気に入りましたか。
 20歳以下 20代前半 30代前半 40代前半
 50代前半 60代前半 70代前半 80歳以上

3. どちらから参加されましたか？
 1. 男性 ()名 2. 女性 ()名

4. 【木造高校生会】の旗からハイキングは好評ですか？(回答で7日目の開催)
 □ 期待で 2期待 3期待 4期待 5以上 (期待)

5. 旗柄に合った着字や旗柄はどこですか。(複数回答可)
 シェンロン公園 津軽の歴史 木造町民のステイション
 高千穂城 津軽弁 歴史 縄文博物館 しきろ庵
 津軽の歴史 木造町

6. 木造高校生会によるガイドはいいかげんではないですか？
 ・評価が低い方
 1. 大満足 2. 良い 3. まあまあ 4. 悪い 5. とても悪い
 ・評価が高い方
 1. 大満足 2. 良い 3. まあまあ 4. 悪い 5. とても悪い
 ・平均の大きさ
 1. 大満足 2. 良い 3. まあまあ 4. 悪い 5. とても悪い

※旗柄に続きまして

・ガイドの感想
 1. 大満足 2. 良い 3. まあまあ 4. 悪い 5. とても悪い
 ・高千穂城や津軽弁などについてさらにご記入をお願いします。

7. 津軽の旗からハイキングに参加したい一番の理由は何ですか。

8. 【木造高校生会】の旗からハイキングの開催時期としてご希望はありますか？
 1. 春 2. 夏 3. 秋 4. 冬 5. 大人の休日クラブ(土日祝限定)

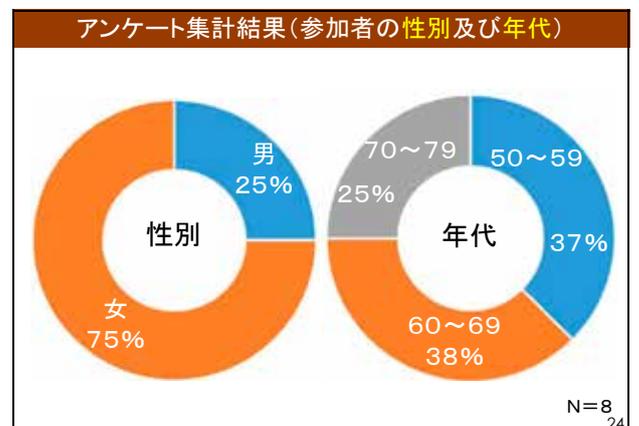
9. 【木造高校生会】の旗からハイキングの開催時期のご希望はありますか？
 1. このままよい(希望) 2. 希望 3. どちらでもない
 4. その他()希望

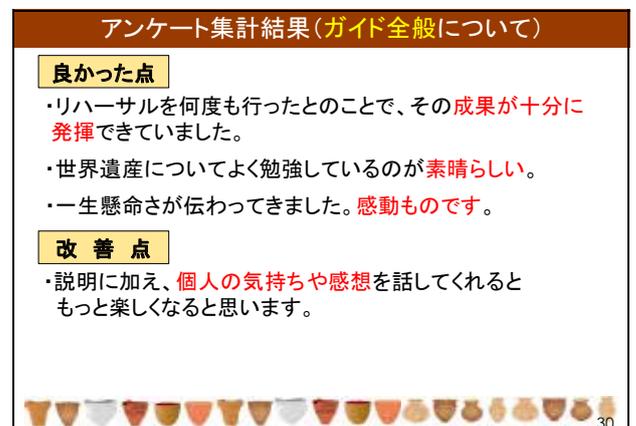
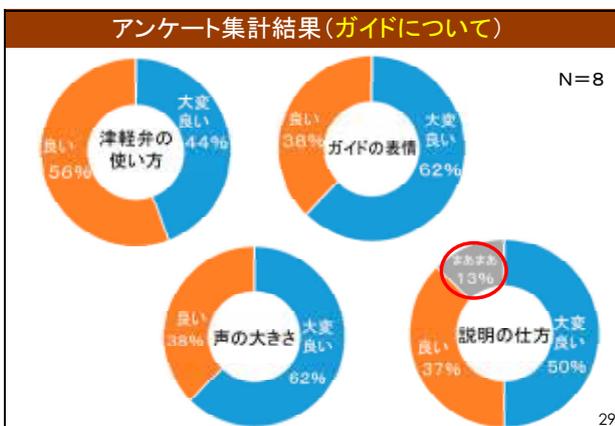
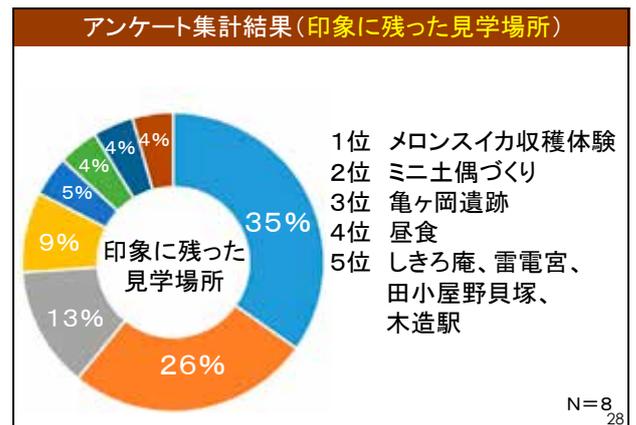
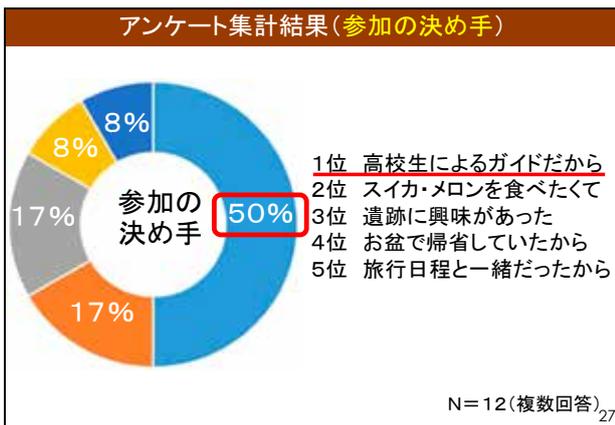
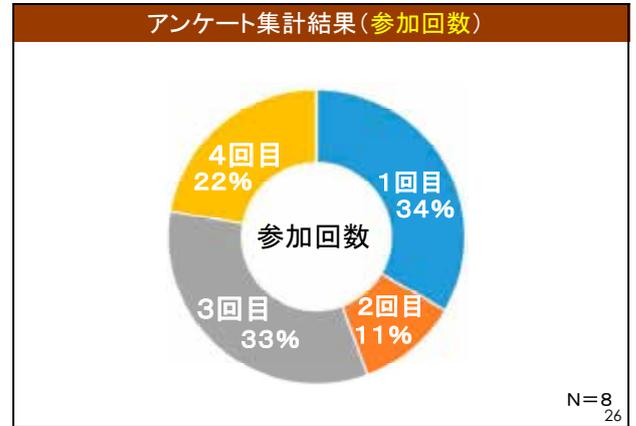
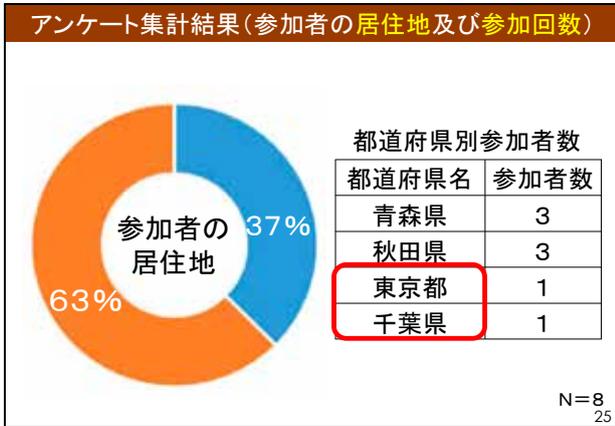
10. 津軽も【木造高校生会】の旗からハイキングに参加したいと思いませんか？
 1. 参加したい 2. 参加したくない 3. どちらともいえない

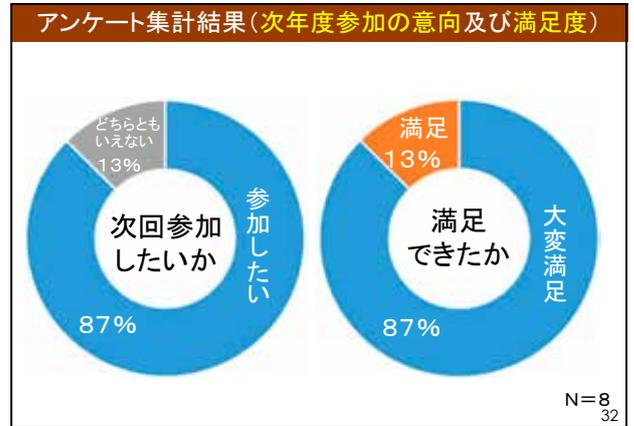
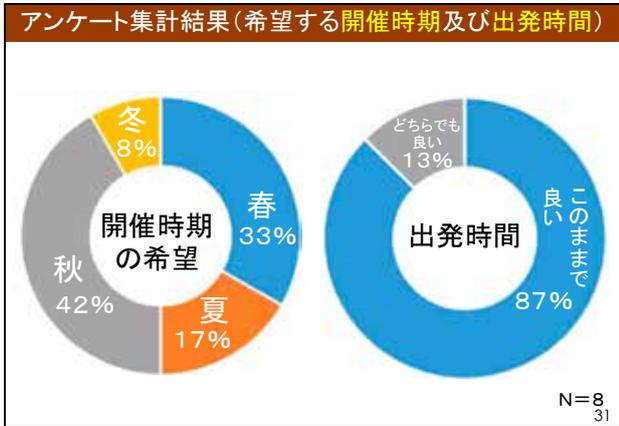
※津軽の旗からハイキングが実施して、津軽高校がさらにご記入をお願いします。

11. 津軽に、津軽の旗からハイキングの開催していただく希望はありますか？
 1. 大満足 2. 満足 3. 希望 4. 満足できない
 ※今回は、木造高校生会「旗からハイキング」に参加およびアンケート調査への参加、旗にお知らせのご報告でした。
 ※旗柄に合った着字や旗柄につきましては、これから検討中ですが、木造高校生会「旗からハイキング」より実施した内容とし、参加された皆様へお礼の気持ちを込めて旗柄をデザインし、旗柄をデザインしてまいります。また、旗柄をお知らせしていただく場合は、旗柄をデザインし、旗柄をデザインしてまいります。
 木造高校生会事務局 津軽の旗からハイキング事務局

23







参加者から頂いた御意見

- ・参加者が少なく大変辛苦しい。
- ・ここ2、3年同じコースなので新しい所を取り入れてほしい。
- ・町の方々も一緒に参加してくれているのがうれしかった。
- ・今年もスイカがおいしかった。また参加したい。

33

駅からハイキング実施後の分析結果

- (1) 体験活動が好評**
 - ・次年度も継続して実施
- (2) 地元の方々への呼びかけを強化**
 - ・つがる市広報の活用
 - ・商店街、ショッピングセンターでのPR活動の強化
- (3) 説明の方法**
 - ・早期の準備とガイド練習の強化
- (4) 新コースの導入**
 - ・リピーターのための新コースの設定

34

新コース導入の検証

つがる市役所→ベンセ湿原→高山稻荷神社→むらおこし拠点館フラット→しゃこちゃん広場→木造駅→つがる市役所

つがる市観光の柱

- ・ベンセ湿原 (ニッコウキスゲの群落)
- ・高山稻荷神社 (幾重にも連なる鳥居)

35

新コース導入案

案1: ベンセ湿原を加えた新コース

ハイキングコース

①ベンセ湿原(6月上旬から中旬の実施)
【メリット】
・実施時期が参加者の希望に添える
・現行コースに比較的近い距離 (平滝沼から約3km 徒歩で約40分)
【デメリット】
・コース延長に伴い、好評である体験活動の時間が取れない

【実施に向けた課題】
・6月実施ではNPO法人「つがる縄文の会」様の事業である「JOMON亀ヶ岡遺跡まつり」との連携がとれない

バス代等の支援が得られないのではないか

36

新コース導入案

案2: 高山稲荷神社を加えた新コース案

ハイキングコース 午前プラン

①高山稲荷神社
【メリット】
・つがる市を代表する観光地
【デメリット】
・現行コースから遠い距離
しやこちゃん広場まで約8km 徒歩で約1時間40分

ハイキングコース 午後プラン

【実施に向けた課題】
・「駅からハイキング」の規定上、バス利用は駅発着に限られる
・総歩行距離が10kmを超え、体力的に厳しい

↓

縄文文化を伝える説明が十分にできない

37

縄文遺跡群の世界文化遺産登録に向け つがる市が取り組むべき改善策の提案

38

世界遺産登録に向けたつがる市の取り組み つがる市教育委員会学芸員 羽石智治様への取材

Q. つがる市の縄文遺産の抱える課題は何ですか。

A. 出土した場所が特定しづらいため、遺跡の整備が進んでいない。

Q. 課題解決に向けてつがる市が取り組んでいることはありますか。

A. 新たな資料館の整備。ボランティアガイドの実施。

Q. 遺跡から出土したものの保管や管理はどのようにされているのか。

A. 兼館地区にある建物に保管している。しかし、管理は十分ではない。

Q. 世界遺産の登録へ向けての活動に対する予算はどれくらいか。

A. ほかの関連している遺跡群と費用を出し合って活動している。

Q. 認知度を高めるために、どのような催しを考えているか。

A. ボランティアガイドや土偶づくり体験を行っている。小中学生を対象にやっている。さらに活動の幅を広げていく必要がある。

39

改善案① 地域の魅力発見

(1) つがる市内の小学校、中学生に亀ヶ岡文化を教材とした歴史学習

・縄文文化に関するつがる市独自の教材を作成(小学生用、中学生用)
・木造高校生による出前授業の実施

40

改善案② 交通網の整理

(1) タクシーの割引サービス

- ・木造駅から縄文遺跡までのタクシー定額サービスの実施
- ・相乗り可能
- ・配車アプリを利用した事前確定運賃サービス(尾崎タクシーが対応)

=
=

41

改善案② 交通網の整理

(2) 旅行パックの販売

・航空券+宿泊+つがる市内観光タクシーのセットプランの販売

+
+

セットでお得!

42

改善案② 交通網の整理

(3) タクシーの車両自体も縄文のイメージに合ったものにする
ことで、交通手段そのものも観光対象とする

- 乗車率の向上と地域の魅力の発信が可能
- 集客力の向上や観光地としての誘客力向上



43

改善案② 交通網の整理

(4) 外国人旅行者のニーズが特に高い多言語対応、無料Wi-Fi
サービス、キャッシュレス決済対応等の取組を進める

外国人観光客の増加



44

改善案③見える化の推進(世界遺産三重津海軍所跡の事例)

(1) デジタル技術 (AR (拡張現実)、VR (仮想現実)、MR (複合
現実)、SR (代替現実)) の活用



45

改善案③見える化の推進(百舌鳥古市古墳群の事例)



46

改善案③デジタル技術を活用した「見える化」の課題

課題: 高額な初期投資が必要

	三重津海軍所跡	百舌鳥古市古墳群
初期投資額	6,000万円 ゴーグル 110台 コンテンツ作成費 等	1,400万円 ゴーグル 50台 コンテンツ作成費 等
更新費用	1~2,000万円 (約2年毎に更新)	今年度導入につき未更新 (次年度更新予定)

解決策: 本校情報システム系列と大学が連携し、コンテンツ作成を行う

- 弘前大学、青森公立大学、青森大学、八戸工業大学でVRの研究が行われており連携した授業も可能
- 現状では、本校にVR開発を行う機材やソフトがない...環境を整えば
- デジタル技術の活用について、教育委員会学芸員 羽石様のご意見
- 新たに遺跡を整備しなくても済み、当時の状況がわかるので有効な案である。

47

改善案③見える化の推進(国史跡 纏向遺跡の事例)

(2) 目印の設置

取組前の状況 案内板のみ設置



亀ヶ岡遺跡・田小屋の貝塚も同じ状況



48

改善案③見える化の推進(国史跡 纏向遺跡の事例)

(2) 目印の設置

取組後 大型建物跡に丸太で目印



クラウドファンディングによる資金集め
事業費の4分の3に相当する900万円を目標

改善案③見える化の推進(音声ガイダンスの設置)

(3) ゼンマイ式の音声ガイダンス(多言語対応)



7か国語に対応

世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道(和歌山県)

改善案③見える化の推進(QRコードの設置)

(4) QRコードを設置



太宰治記念館「斜陽館」



世界遺産 勝連城跡(沖縄県)

改善案④観光地としての来訪者の受け入れ態勢について

(1) 「道の駅」を亀ヶ岡地区に整備観光資源の魅力向上を図る

- ・亀ヶ岡遺跡の情報発信基地(ガイダンスセンターとして活用)
- ・ボランティアガイドの常駐
- ・スコープ等の備品の貸出や管理



改善案④観光地としての来訪者の受け入れ態勢について

各種イベントの開催

- ・縄文人の生活体験
- ・竪穴住居ホテルでの宿泊体験
- ・縄文人なりきりコンテスト
- ・土偶を使ったご当地アイドルの発掘



令和元年度高校生縄文人養成事業
家内人養成講座でのグループワークの様子
(青森県教育委員会主催)

各グループからの提案



改善案⑤情報の発信について

(1) SNSの活用

- ・YoutubeやIGTVに動画を配信
➢ドラマ仕立てやアニメ化による聖地巡礼効果
- ・ハッシュタグの活用



#しゃこちゃん #亀ヶ岡遺跡 #縄文人

改善案⑥魅力ある地域づくりについて

(1) 地域ならではのメニューを開発

- ・縄文時代の食文化を現代風にアレンジしたメニューの開発
提供の際は縄文土器の器にのせる
- ・土偶や土器をイメージしたお土産品の開発
サブレ、ビスケット、ワッフルなどのお菓子
食器、花瓶などの工芸品
アクセサリ、文房具などのグッズ



← 昨年度の卒業生が地元菓子店と共同開発

55

つがるDMO(仮称)の設立

改善策を単独で実施しても効果は発揮されない



関係者と連携をとる舵取り役が必要 ⇒ つがるDMOの設立

日本版DMO及び候補法人登録件数(令和2年1月14日時点)

- 広域連携DMO(10法人) (一社)東北観光推進機構 など
- 地域連携DMO(109法人) (一社)津軽圏域DMO(仮称)など
- 地域DMO (148法人) (一財)プナの里白神公社(西目屋村) など

56

つがるDMOによる関係者との連携を一元管理

つがる市の多様な関係者との連携

つがるDMOを中心に、多様な地域の関係者と連携

- 木造高校
- 地域住民
- 福島の観光
- 飲食店
- 商工業

稼ぐ力

観光客増加

つがる市の活性化の実現

57

駅からハイキングの結果及び改善案の提案プレゼンテーション



教育委員会学芸員羽石様・成田様

- ・アンケート結果の希望・要望を教育委員会に情報共有してほしい。
- ・小中学校に向けた縄文の教材は地元の学校側からも依頼があった。

つがる縄文の会理事長川嶋大史様からの講評

- ・アンケートの結果は一つの目安。全ての遺跡の認知度、満足度ではない。
- ・「がっかり遺跡」とならないために、どう見せるかは重要だが、急ぎすぎると失敗するので、一緒に提案していきたい。
- ・教育委員会では遺産の保全が優先であり、商工観光課的には観光を推進したいという思いがあるので、DMOという発想は悪くない。

58

駅からハイキングの結果及び改善案の提案プレゼンテーション

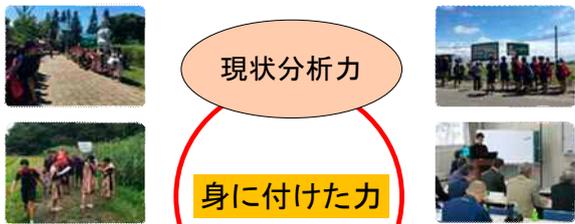


つがる市長 福島弘芳様からの講評

- ・遺跡のPR、メロンシイカの食のPRと津軽弁ガイドによる観光地のPRが効果的に組み合わせられて行われ感心している。
- ・この活動で得た価値をさらに高めるためにも、参加者へのアンケートによる貴重な意見、課題を分析するとともに、改善策を加えてほしい。
- ・今後も地元の高校生として、様々な課題に対して、自分たちでかんじたこと、思ったことを提案してほしい。
- ・積極的に街づくりに参加するとともにつがる市の魅力をPRしてくれることに期待する。

59

活動をとおして



現状分析力

身に付けた力

実行力

課題解決力

60

地域一丸となって世界文化遺産登録を成功させる



ご清聴ありがとうございました

